

物犯罪者の矯正教育 府中刑務所のグループミーティング

監獄法を抜本的に改めた「刑事施設・受刑者処遇法」が先月成立し、刑務所での矯正教育が義務化されることになった。とりわけ再犯率が高い薬物犯罪で、受刑者に対する指導効果が期待されている。法務省は近く、グループミーティングと呼ばれる手法を盛り込んだ「薬物依存離脱指導プログラム」を作成し、来年度から各刑務所で実施する方針だ。先駆的にグループミーティングを取り入れている府中刑務所（東京都府中市）で、再犯防止の取り組みを見た。

【和田明美、森本英彦】

本音語り将来に希望

府中刑務所の一室に、覚せい剤使用で実刑判決を受けた31〜64歳の男性受刑者14人が集まった。いずれも過去に1〜7回、薬物犯罪で服役した経験があるという。

記者は許可を受け、グループミーティングを取材した。刑務官が「何度も刑務所に入って、なぜやめられないのか」と、受刑者らに問いかけた。

「自分はクスリをコントロールできると思っていたけど、結局できずに、ここに来ってしまった」

「前は覚せい剤を使って車を運転し、同乗者を亡くした。(出所後に)賠償金を払っていたけど、昼の仕事だけでは足りなくて夜も働き、負担が増えて、また(覚せい剤を)使ってしまった」

受刑者が口々に理由を語る。グループミーティングは、受刑者同士の話

に役立てる手法だ。府中刑務所は、薬物依存者のための民間助団体「日本ダルク」を招き、昨年4月から実施している。刑務官が今度は「再び覚せい剤を使う前に、また刑務所行きたとか、大事な人のことを思うとかはないの?」と尋ねた。「生活が順調だったら、



「浮かべても、やりたい状態になるとだめ」誰かが真剣に聞き、語る。一人の受刑者が、日本ダルクの近藤恒夫代表(63)に問いかけた。「逮捕されなかったら、今も使い続けていた。一人で

「やめられない。どうしたらやめられるのか」近藤さんは「自分だけめな人間と思っていたら、やめられない。『苦しい』とか『困った』と言っことは恥ずかしいことではない。ちゃんと伝えないと、誰も助けてくれない」と語りかけた。日本ダルクの別のメン

バーも話に加わった。「50歳近くになって価値観を変えらなれていけない、と思っていたけれど、ダルクでミーティング中心の生活を続けるうち、社会に合ってきたと感じるよ」。薬物依存から抜け出した人の言葉に、受刑者たちは聴き入った。

約1時間半に及んだグループミーティング。36歳の受刑者は「これまで(薬物使用を)通報され

同じ苦しみ共有／安堵感持てた…

「生活が順調だったら、

「目の中に入れても痛くない自分の子の顔を思

「生活が順調だったら、

「生活が順調だったら、

「生活が順調だったら、

薬物犯罪者の矯正教育 府中刑務所のグループミーティング

者処遇法」が先月成立し、刑務所での矯正教育が義務化されることになった。とりわけ再犯率が高い薬物犯罪で、受刑者に対する指導効果が期待されている。法務省は近く、グループミーティングと呼ばれる手法を盛り込

本音語り将来に希望

し、来年度から各刑務所で実施する方針だ。先駆的にグループミーティングを取り入れている府中刑務所（東京都府中市）で、再犯防止の取り組みを見た。

【和田明美、森本英彦】

クローズアップ 2005

府中刑務所の一室に、覚せい剤使用で実刑判決を受けた31、64歳の男性受刑者14人が集まった。いずれも過去に1〜7回、薬物犯罪で服役した経験があるという。

記者は許可を受け、グループミーティングを取材した。刑務官が「何度も刑務所に入って、なぜやめられないのか」と、受刑者らに問いかけた。

「自分はクスリをコントロールできると思っていたけど、結局できずにここに来ってしまった」

「前回は覚せい剤を使って車を運転し、同乗者を亡くした。(出所後に)賠償金を払っていたけど、昼の仕事だけでは足りなくて夜も働き、負担が増えて、また(覚せい剤を)使ってしまった」

受刑者が口々に理由を語る。グループミーティングは、受刑者同士の話し合いを通じて自分が抱える問題を自覚し、更生

に役立てる手法だ。府中刑務所は、薬物依存者のための民間自助団体「日本ダルク」を招き、昨年4月から実施している。刑務官が今度は「再び覚せい剤を使う前に、また刑務所行きたとか、大事な人のことを思うとか、はないの？」と尋ねた。

「生活が順調だったら、

覚せい剤なんかやらない。何もかもうまくいかない時に、もうどうでもいいや、とやる」

「現実から逃避しているんだよ」

「目の中に入れても痛くない自分の子の顔を思い浮かべても、やりたい状態になるとため」

「誰かが真剣に聞き、語る。一人の受刑者が、日本ダルクの近藤恒夫代表(63)に問いかけた。「逮捕されなかったら、今も使い続けていた。一人で日本ダルクの別のメン

同じ苦しみ共有／安堵感持てた…

「浮かべても、やりたい状態になるとため」

「誰かが真剣に聞き、語る。一人の受刑者が、日本ダルクの近藤恒夫代表(63)に問いかけた。「逮捕されなかったら、今も使い続けていた。一人で日本ダルクの別のメン

「浮かべても、やりたい状態になるとため」

「誰かが真剣に聞き、語る。一人の受刑者が、日本ダルクの近藤恒夫代表(63)に問いかけた。「逮捕されなかったら、今も使い続けていた。一人で日本ダルクの別のメン

「浮かべても、やりたい状態になるとため」

バーも話に加わった。50歳近くになって価値観を委ねるなんてできない、と思っていたけれど、ダルクでミーティング中心の生活を続けるうち、社会に合ってきたと感じるよ」。薬物依存から抜け出した人の言葉に、受刑者たちは聴き入った。

約1時間半に及んだグループミーティング。36歳の受刑者は「これまで(薬物使用を)通報され

ことはジョン・リハビリテーション・センター(薬物依存リハビリセンター)の略。自らも薬物依存症だった近藤恒夫さんが85年、民間のリハビリ施設として創設したのが生活する。

.....

のが怖くて、他人に本
 を言えなかった。みんな
 の話を聞いて、自分と
 同じ苦しみの方がいたと
 分かった。話を聞いても
 かって安心する」と話し
 た。40歳の受刑者も「み
 んなの話を聞いて、自分
 と同じだと安堵感があっ
 た」と語った。

府中刑務所の杉本勉首
 席矯正処遇官は「受刑者
 たちは悩みや問題を抱え
 ているのが自分だけでは
 ないと実感し、自分から



課題は出所後のサポート

高い再犯率 防止策急務

出所後に再び薬物に依
 存することを防ぐための
 教育内容は、各刑務所任
 せとなっているのが実情
 だ。モデルとなるプログ
 ラムはなかった。府中刑
 務所のようにグループミ
 ーティングを取り入れて
 いる施設はまだ少数で、
 大半はビデオ教材を見た

府中刑務所の一室で、受
 刑者が円形になって座
 り、自分の覚せい剤の体
 験を積極的に話し始めた

和田明美写真

り、刑務所の教官が薬物
 の危険性を話す程度。再
 犯防止効果は不十分」と
 指摘されていた。

このため法務省は近く
 まとめる「薬物依存離脱
 指導プログラム」に、①
 グループミーティングの
 充実②ダルクなどの民間
 自助団体との連携強化
 を盛り込む。来年度か
 ら各刑務所で実施に移す
 方針だ。

04年版犯罪白書による
 と、覚せい剤取締法違反
 罪での受刑者は約1万5
 000人で、全受刑者の
 4分の1を占める。その

うえ満期出所者の約6
 割、仮出所者の5割弱が
 5年以内に再び服役して
 おり、ほかの犯罪と比べ
 て再犯率が極めて高い。

刑務所の収容人員が定員
 を超える過剰収容が深刻
 になっていることもあ
 り、覚せい剤受刑者の再
 犯防止は急務だ。

ほぼ100年前に制定
 された監獄法には、矯正
 教育の受講を義務付ける
 規定がなかった。このた
 め04年度に薬物乱用防止
 教育を受講したのは、薬
 物犯罪受刑者の2割、約
 2900人とどまる。